

岐阜大学地域科学部地域文化講座



林正子教授

ヒ大学東アジア研究所で在外研究しました。

います。近代日本における〈批評〉(＝評論)概念の成立を考察する文化

川端康成、谷崎潤一郎
中河与一、太宰治、坂口
安吾、大岡昇平、三島由
紀夫、円地文字、宮本輝
らの小説を対象として、
「恋愛」など学生にとつ
て身近な話題から文学の

研究室から 大学はい

大学はいま

専攻は、明治以降の小説・評論研究。「近代日本の〈文明評論〉におけるドイツ思想・文化受容の意義」「日本近代小説における〈自〉探究」と作家の手法を研究テーマとしています。昨年度は十力月間、ドイツ・ライプチ

留学体験の意義を考察する」とが研究課題でした。が、壁崩壊後の現代ドイツにおける「心理的な壁」の存在や国家主義的な動向にもじかに触れさせていた。「たゞ」とは、教養科目の授業では、

論の講義では、〈文明〉と〈文化〉の語義の違いを確認することから始め、明治初年代から大正期までの〈文明評論〉を紹介。また、本年度の専門セミナー生たちは、夏目漱石、村上春樹、小泉八雲、巖谷小波、松本清張らの作品を対象とした修士論文・卒業論文の執筆に励んでいます。

明治以降の小説・評論研究を専攻

十八年前に岐阜大学に赴任して以降、岐阜市・各務原市読書サークル協議会文学講座や「岐阜文学散歩」など、地元の人々との交流の機会にも恵まれ、多くの人々と一緒に文学作品に接する醍醐味（だいごみ）を堪能させていただいています。

(岐阜大学地域科学部
地域文化講座教授 林正